

議 事 録

会議名	釧路市障がい者自立支援協議会 雇用就労部会
事務局	釧路市障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター
開催日時	平成31年4月19日（金） 16:00～
開催場所	釧路市市役所防災庁舎5階 会議室A
出席者	<p>委員</p> <p>出席 49 名 高谷部会長（ぶれん）、西川（HAGemi）、新山（いずみの里）、関谷（オフィスきらり）、佐々木（くしろわんこ）、濱淵・原田・大木・吉川・古瀬・中村・宮腰（ぶれん）、鈴木（浩）・竹谷・石川（あらんじえ）、金橋（あれんじえⅡ）、宮下（工房かのん）、小西（サン・フラワー）、小野（ノーサイド）、伊藤（すてっぷ）、植田・二瓶（いっ歩）、千葉（大きな木）、堀内（ひかり自立支援センター）、奈良（はばたき）、池田（はしどい学園）、清水（馬木葉クラブ）、橋本（りあん）、姉崎（ふおると）、町田、根岸（VIVIANA）、佐々木（なにわ亭）、宮田（すまいる946）、大澤（あかし）、中山（ナポリの窯）、白石（せんしんサポート）、梅野（音羽協働センター）、佐藤（若者サポートステーション）、成田・朴（中標津支援学校）、原田・斉藤（鶴野支援学校）、小林・笹村（釧路市生活福祉事務所）、追分・工藤（釧路養護学校）、池田・犬養（白糠養護学校）太田（きぼう）《議事録担当》（敬称略）</p>
	<p>その他</p>
	<p>傍聴者</p>
	<p>事務局</p> <p>釧路市障がい福祉課：佐々木・吉田（慎） 釧路市障がい者基幹相談支援センター：近藤・脇田</p>
<p>会議次第</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 挨拶 釧路市障がい者自立支援協議会 雇用就労部会長 高谷 さふみ 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 雇用就労部会部会員自己紹介（いっ歩、VIVIANA） (2) 自立支援協議会で課題とした方がよい地域の課題について (3) H31年度雇用就労部会のスケジュールについて (4) その他 4. 閉会

議 事 内 容

1 開会

2 挨拶

雇用就労部会長から、次の話題についてお話された。

- ・旧優生保護法に基づく強制不妊手術について、被害者に対する安倍首相からの陳謝と一時金320万円の支給が決まる。
- ・相模原障がい者施設殺傷事件の初公判が来年1月から始まる。
- ・本年4月から、障がい者手帳のカード化が認められた。

3 議事

(1) 雇用就労部会員自己紹介

・いっ歩

就労継続支援B型事業所。代行サービスを行う。主な作業内容としてグループホームの買い物代行や空き缶のリサイクル業を行う。特色として休憩時間を長く取り、体調に合わせた支援やコミュニケーションを取る時間を設けている。

・V I V I A N A

就労継続支援B型事業所。利用者18名在籍。昨年10月に開所した。主な作業内容として料理補助、室内片付け、名刺を点字の打ち込み等。特色として生活に密着した支援や日常生活のサポートを行う。

(2) 自立支援協議会で課題とした方がよい地域の課題について

課題検討に先立ち、事務局より自立支援協議会について再認識のため説明を行った。(以下、①～④は説明概要)

①目的について

関連機関の相互連絡や地域における支援体制に関する課題について情報共有、連携の緊密化を図るとともに地域の実情に応じた体制整備のために行われるものである。

②協議会の体系について

釧路市の協議会では、全体会、運営会、定例会、専門部会に分類され、専門部会にて関係機関等による連携及び支援体制の推進に必要な事項について情報共有及び協議を行った事項を運営会、全体会の順に協議する形になっている。

③雇用就労部会の位置づけについて

雇用就労部会は専門部会であり、当部会では、釧路市における障害者の雇用就労に関して、関係者による連携と支援体制の推進に必要な事項について、情報共有及び協議を行う場である。

④他部会や全体会等との関わりについて

専門部会で協議された事項等は、運営会での協議内容となる。運営会では、専門部会で協議された事項を協議するほかに定例会の調整を行う。定例会とは、各専門部会員が参加することができるものであり、各部会員が情報共有を行うことができる。

また、全体会では、運営会において協議された事項及びその他協議会の設置目的を達成するのに必要な事項を協議する。

議 事 内 容

事務局からの説明の後、事業所が考える釧路地域で不便に感じていることについて、地域の課題まとめ資料から問題点を検討し各グループから発表する。

○ グループ 1

①就労移行支援の課題として、スタッフ不足や支援体制が整っていない。仕事の仕方、体制を整える。

②スタッフが利用者に適切な支援するために、利用者には面接をして方向性をつけ支援をおこなっていく、スタッフはスキルアップを行っていく。

○ グループ 2

①一般就労先の開拓として、見学の際にハローワークとの連携や企業側の受け入れ体制が無く、またその後のフォローや支援後の体制はどうなるのか。職場実習制度やジョブコーチ制度の活用。企業側への説明の仕方を工夫する。どのような制度があるのかを知っていただき構築していく。

○ グループ 3

①就労継続支援A型事業所において、医師と支援員の情報共有がなかなかできなく連携が取りづら。求人募集を出しても人が来ない。体験利用については1週間ぐらいが望ましいのではないか。

②学校において、褒めて伸ばす教育を行っている。学校での生活と社会人になってからの生活のギャップを埋めるのが難しい。進路相談において、親との考えの差があり実態に応じた事業所選びが必要。

○ グループ 4

①就労継続支援A型事業所について、一般就労より就労時間が短く、そこそこの賃金を頂くことにより居心地が良く、一般就労に結びつかないのではないか。

○ グループ 5

①グループホームの不足について、親なき後の住まいをどうするかが課題になる。

②医療との関係について、制度の整備が必要ではないか。

③相談支援事業所との連携について、モニタリングの中で本人の意志が置き去りにされているのではないか。

○ グループ 6

①グループホーム不足について、高齢化が進み入所系施設においては介護が困難で介護寄りの施設が少ない。

②送迎について、送迎が困難な場合に、交通機関の考慮や送迎があれば通所したいとの声が多い。

○ グループ 7

①職員不足において、送迎が難しい、求人を出しても来ない。

②職員不足の解消の為に地域資源の活用、例えば、事業所間での人材の貸し借りを行ってはどうか。

○ グループ 8

①福祉サービスに繋がらない困難さがあり、本人のサポートシステムがあればいいのではない

議 事 内 容

か。

②障がい者手帳の有無に関係なくサービスを受けられる方法はないか。

③受け入れ体制の構築が必要ではないか。

(3) 今年度雇用就労部会のスケジュールについて

- ・年間6回、偶数月に行う。
- ・次回は6月、生活福祉事務所の方の協力をいただき、生活保護制度について行う。
- ・北星学園の講師派遣事業に応募している。地域資源の活用の方法をテーマに8月を目途に行う。
- ・10月、12月は未定。
- ・2月は今年度の総括と来年度何をやりたいかをテーマとする。

4 閉会